

(別紙5)

## 【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-1-015  
補助事業名 平成26年度 自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する補助事業  
補助事業者名 一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

### 1 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

アジア地域におけるトレーニングセンターとして、アジア各国の将来有望なトラック競技者及びそのコーチの中から希望者を募り、国内外においてトレーニングキャンプを実施することにより、自転車競技の普及振興と競技力の向上を図る。

また、自転車競技大会では、トラック競技大会を開催し様々な年代・技量を持つ自転車愛好者にトラック競技の醍醐味を伝え、生涯スポーツとしての自転車利用の促進並びに自転車愛好者の底辺拡大を図る。

#### (2) 実施内容

アジアサイクリングセンターの運営

##### ①国内トレーニングキャンプ

第1回トレーニングキャンプ； <http://www.csc.or.jp/ccc/index.html>

- ・期間：平成26年6月27日から7月10日（14日間）
- ・参加人数：2カ国、選手4名  
内訳(香港チャイナ：選手2名、タイ王国：選手2名)



ペダリングとフォームの指導



国旗を持つ参加者

- ・練習内容：参加者の指導に当たっては少人数のため、きめ細かいパーソナル指導を実施するとともにフィジカル並びにスキルに関して基礎的なプログラムに徹し、指導することができた。今回はキャンプ中期に開催した「寛仁親王メモリアルワールドグランプリ：UCIカテゴリー3」及びキャンプ終

了直後「ジャパントラックカップ：UCIカテゴリー1&2」の国際大会が伊豆ベロドロームで開催されたため、すべての選手がそれぞれ参加することができた。その中、週の初めはボリュームあるプログラムを消化し、また大会直前にはギャレシオにより調整するパターンが2週間続くタイトなスケジュールとなった。これら大会出場も選手には、良い経験となり将来の成長を睨んだ一つの通過点・トレーニングに位置づけ実践することができた。

そのほか、Vリーグ・プレミアリーグで何度も日本一に輝いた東レアローズ男子バレーボールチームのクロストレーニングが伊豆ベロドロームで実施されていることから、会場を共有して相互の国際交流を図ることができた。更には短期登録者の国際競輪選手とも遭遇する機会に恵まれ様々なトップアスリートと交流することが参加選手にとって大変貴重な経験になった。

#### 第2回トレーニングキャンプ；

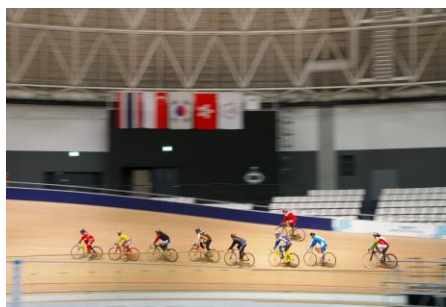
- ・ 期 間：平成26年12月5日から12月17日（13日間）
- ・ 参加人数：5カ国、選手10名  
内訳(チャイニーズタイペイ：選手3名、香港チャイナ：選手1名、大韓民国：選手2名、シンガポール：選手1名、タイ王国：選手3名)



オープニングセレモニー



台上走行テスト



ウォーミングアップ



トレーニングのあとのストレッチ

- ・練習内容：参加者層の大半はジュニア及びユースの若いアスリートであったため、基礎をじっくりと反復するプログラムを主体に指導を実施した。選手にとってはきつい内容となったものの、選手が納得する説明を行うとともに体調管理を含めたコンディションや将来を見込んだアスリートへのトレーニング指導を実施した。

このほか、333メートルピストを会場に開催した静岡県自転車競技連盟主催の初めての自転車トラック競技大会に加わり、子供たちを指導・応援するほか、静岡県立伊豆総合高等学校の体育選択科目の授業に参加するなどトレーニング以外でも経験を積むことができた。

## ②海外トレーニングキャンプ (<http://www.csc.or.jp/ccc/index.html>)

南・東南アジアの競技発展途上国を中心とするアジア全域におけるトラック競技の普及を目的にThai Cycling Associationの協力の下、CCC修善寺から指導員3名と事務局1名を派遣し、タイ王国・バンコクで海外トレーニングキャンプを開催した。また、引き続き同会場に於いてACCトラックアジアカップ2014タイラウンドに出場する機会を得、トレーニング効果を検証した。

トレーニングキャンプ期間：平成26年9月30日から10月9日（10日間）

〔 ACCトラックアジアカップ2014タイラウンド開催期間  
平成26年10月10日から10月12日（3日間） 〕

開催地：タイ王国・バンコク ファマーク自転車競技場

派遣スタッフ：4名（指導員3名、事務局1名）

参加人数：8カ国33名（選手24名、コーチ9名）

チャイニーズタイペイ：選手3名、香港チャイナ：選手2名、  
大韓民国：選手2名・コーチ1名、マレーシア：選手8名・  
コーチ2名、シンガポール：選手1名、マカオチャイナ：選手2名・  
コーチ1名、ウズベキスタン：選手2名・コーチ1名、タイ王国：  
選手4名、コーチ4名



オープニングセレモニー



指導員よりトレーニングの説明



ウォーミングアップ



ローラートレーニング



ウズベキスタンの選手に解説するコーチ シンカポールの選手を支えるコーチ

- ・実施内容：地元のタイ自転車協会（TCA）の理解と協力もあり、優先して競技場が使用できた。プログラムについては、前半期の軽めのギアレシオによる基礎トレーニングを実施し、筋肥大や呼吸循環機能の向上などを目指すこととした。また、後半では、ACCカップに出場する11名の選手については、各国コーチの要望も傾聴しながら大会用のトレーニングを実施した。残りの選手たちについては、少し重めのギアレシオを使用してパワートレーニングを行い、神経系筋出力能の向上に努めた。そのほか、アジア地域の有望選手発掘並びにCCC修善寺利活用PRも併せて実施した。

### ③トラック競技大会（夏・秋2大会）

([http://www.csc.or.jp/event/track\\_kidsmaster/index.html](http://www.csc.or.jp/event/track_kidsmaster/index.html))

今年で10年目を迎え、競技会場も3年前より屋内板張り250m自転車競技場「伊豆ベロドローム」に移し、天候に左右されることなく毎年開催している。

CSCトラック自転車競技大会2014 夏(kid's～マスターズ)





タイムトライアル

PL.	No.	Name	Team	Time
1	0082	恒松繪里人	伊豆CSC	49.530
2	0014	田島 可惟	伊豆CSC	50.659
3	0013	大橋 泰慧		51.316
4	0012	荒井 幹太	あびこラビースクール	1:13.826
5	0003	金井 桃香	静岡市立西豊田小	1:17.190
6	0002	金井 結香	静岡豊田幼稚園	1:28.542

0014 50.659      0082 49.530 Win  
田島 可惟 (伊豆CSC)      恒松繪里人 (伊豆CSC)  
+ 1.129 (2)      - 1.786 (1)

電光掲示板



チームスプリントスタート



集合写真

- ・開催日：平成26年7月26日・27日
- ・会場：伊豆ベロドローム
- ・参加人数：82人（最年少4歳、最高齢81歳）

CSCトラック自転車競技大会2014 秋



電光掲示板



表彰

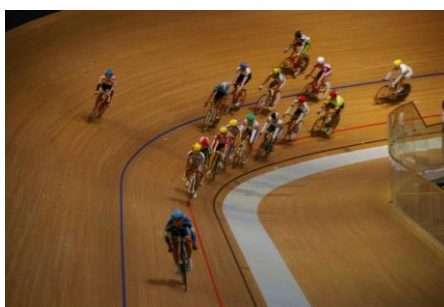


競技前の案内説明



伊豆ベロドローム

(別紙5)



ポイントレース風景



集合写真

- ・開催日：平成26年10月5日
- ・会場：伊豆ベロドローム
- ・参加人数：68人（最年少6歳、最高齢67歳）

## 2 予想される事業実施効果

### アジアサイクリングセンターの運営

#### 1 国内トレーニングキャンプ

国内トレーニングキャンプの参加者は、今回においても年々増加傾向にあるジュニア・ユース世代の若い参加者であることから、基礎的なトレーニングに主眼を置き、将来性を考慮した長期的な育成ビジョンに基づくトレーニングを行うことにより、アジア地域における選手の競技力の向上並びにトラック競技の普及が図られ、世界レベルで活躍できる選手の輩出が期待できる。

#### 2 海外トレーニングキャンプ

経済的な事情で国内キャンプには参加できない南・東南アジア地域の競技発展途上国において、トラック競技の普及と振興を図るには、必要不可欠なトレーニングキャンプであり、継続的に実施することによって、アジア地域の有望選手発掘及び育成にも繋がっていくと期待されている。

### 自転車競技大会の開催

#### 3 トラック競技大会

国内唯一の屋外型板張り250mトラック「伊豆ベロドローム」を会場に自転車競技大会を開催することは、自転車競技に対する関心を高揚し、愛好者の競技力向上を図る絶好の機会となることから、今後も継続して大会を開催することで、自転車競技者の底辺拡大が図れるものと思料する。

(別紙5)

### 3 本事業に係る成果物

#### (1) 補助事業により作成したもの

##### 国内トレーニングキャンプ

トレーニングマニュアル A4 1/0C ; 50 枚

##### トラック競技大会

開催案内チラシ (夏大会) A4 1/0C ; 1000 枚

大会プログラム (夏大会) A4 1/0C 20P ; 150 部

開催案内チラシ (秋大会) A4 1/0C ; 1000 枚

大会プログラム (秋大会) A4 1/0C 20P ; 120 部

#### (2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

### 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

(フリガナ) イッパングァイタンホウジン ニッポン サイクル スポー ツ センター

住 所 : 〒141-0021

東京都品川区上大崎3丁目3番1号

代 表 者 : 会長 平 柳 豊 (カイヤウ ヒラヤナギ ユカ)

担 当 部 署 : 総務部総務課 (ソウムブ ソムカ)

担 当 者 名 : 総務課長 山口正美 (ソウムカチョウ ヤマケチマサミ)

電 話 番 号 : 0558-79-0006

F A X : 0558-79-0908

E - m a i l : [csczaimu@csc.or.jp](mailto:csczaimu@csc.or.jp)

U R L : <http://www.csc.or.jp>